## 地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み（雄武地域）

**●ナマコの資源回復（継続）**

| （1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan） | | | 関連資料 |
|---|---|---|---|
| 地域 MV における取組の位置付け | 【地域の将来像】<br>循環型社会にも対応した持続ある水産資源の確保<br>・つくり育てる漁業の推進<br>・気候変動に強い漁業体制づくり<br>・安定した雇用の推進<br>【主な取組】<br>厳冬期は漁港内で自然飼育。<br>越冬後、ナマコ増養殖試験及び外海禁漁区への放流作業 | 取組場所<br> | 【取組の様子】<br> <br>【稚ナマコ】<br> <br>【成長したナマコの放流作業】 |
| 取組内容に関連する実施の現状と課題 | 元稲府漁港内静穏水域及び外海施設を利用した水産資源の増養殖試験調査の実施 | | |
| 取組による効果（数値目標） | ナマコ増養殖サイクルの確立に伴う安定漁獲及び漁業所得の向上 | | |
| **（2）取組内容・実施体制（Do）** | | | |
| 取組内容、方法、手順、実施体制 | 【取組内容】<br>元稲府漁港の静穏水域を有効利用するため、漁港内外においてナマコの増養殖試験を実施。<br>これまでは将来的な馴致・育成施設のナマコ収納密度に焦点を当てた調査を行ってきたが、今年度の事業では将来的な作業効率を考慮し、簡易的な外海への放流手順を試みた。<br>R7．6　馴致・育成施設の引揚げ調査⇒外海禁漁区内への移設<br>R7．7　外海禁漁区のナマコ資源量調査、稚ナマコサンプラー調査、漁港内で増殖したナマコの段階調査<br>R7.10　人工種苗の稚ナマコ放流 9 万個（馴致施設 5 千個体×18 基）※前年は約 4 万個（石詰礁 300 個、馴致施設 4 万個）<br><br>【実施体制】<br>雄武漁業協同組合、漁業者、町 | | |
| **（3）効果項目に対する評価（Check）** | | | |
| 数値目標の達成度評価 | 昨年度に設置した 10 基のうち 2 基を対象に残留個体の計測を実施、残留率は 3.5%と前年度より低いが平均体長は放流時（30.0 ㎜）から 37.2 ㎜と良好に成長していることが確認された。<br>残率の低下の要因としては周辺海域の水温が 5℃以上変動しており、ナマコの遊走性が高くなって施設外へ移動したことが考えられる。<br>事実、馴致施設外の水域に放流したと思われる小型個体が複数確認されている。<br>なお、禁漁区外で漁獲サイズの個体の出現も多く確認されており、禁漁区で育った個体が移動し漁獲に寄与している可能性は高いと思われる。 | | |
| 反省点 | 放流区及び禁漁区の底室特性の詳細把握が必要である。 | | |
| **（4）取組の改善措置（Action）** | | | |
| 取組内容の改善点 | 基質直接施設方式の追跡調査を行い、生残率の長期的な検証を進めることが必要となる。<br>事業の大規模化を見据え、作業効率化と資源管理の両立を図る必要がある。 | | |
| 取組の実施に必要なもの | 人力作業であることから、マンパワーが必要となる。またダイバーが必要とされる為、軽微な作業も含め高額な委託料が必要となる。 | | |

●お魚を増やす植樹運動・みどりと親しむ町民のつどい（継続）

| （1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan） | | |
|---|---|---|
| 地域 MV における取組の位置付け | 【地域の将来像】<br>・循環型社会にも対応した持続ある水産資源の確保<br>・漁場の観光保全と循環型社会への対応<br>・「雄武の宝（資源・取組・文化）」を明確にしたまちづくり・ひとづくり<br>【主な取組】<br>・雄武町幌内での植樹運動<br>・生活環境保全林での育樹事業 | 取組場所<br>⑴　雄武町幌内<br><br>⑵　雄武町宮下町 |
| 取組内容に関連する実施の現状と課題 | 環境保全の意識と地元資源の永続的な維持を図るため、町民の意識向上を進める必要がある。 | |
| 取組による効果（数値目標） | 森づくりによる漁場環境の保全と天然魚資源の増加 | |
| （2）取組内容・実施体制（Do） | | |
| 取組内容、方法、手順、実施体制 | 【取組内容】<br>⑴　お魚を殖やす育樹運動（R7.6.3 実施）<br>・「北の魚つきの森」に認定されている幌内川流域の植樹運動実施<br>・植樹本数ミズナラ 800 本（前年 500 本）参加者 100 名以上<br>・総植樹本数 26,500 本<br><br>⑵　みどりと親しむ町民のつどい（R7.10.5 実施）<br>・枝打ち本数　約 200 本　参加者 31 名 | |
| （3）効果項目に対する評価（Check） | | |
| 数値目標の達成度評価 | 事業の根幹である環境意識面については、「お魚を殖やす植樹運動」は漁業関係者中心の実施であったが、100 名を超える参加者が集まり、環境保全の意識向上を図ることができた。<br>「緑と親しむ町民のつどい」は町民・地元児童とともに枝打ちを行うことにより、環境意識の向上を図ることができた。 | |
| 反省点 | 参加人数が年々減少傾向であり、特に「緑と親しむ町民のつどい」は減少が顕著に出ている。 | |
| （4）取組の改善措置（Action） | | |
| 取組内容の改善点 | 今後、継続的に事業を行っていくにあたり広く町民が参加されるよう募集の場を広めていく。<br>これまで植えてきた苗木について、生育状況が芳しくない物が散見されるため、植栽した苗木の継続的な管理を取り進めていく必要がある。 | |
| 取組の実施に必要なもの | 継続実施 | |

**関連資料**

【取組の様子】

【お魚を増やす植樹運動】

【みどりと親しむ町民のつどい】

●水産物のブランド化（継続）

| （1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan） | | | 関連資料 |
|---|---|---|---|
| 地域 MV における取組の位置付け | 【地域の将来像】<br>・雄武高校生徒が特産品開発を通じて、雄武町を調べ、魅力を知り、将来の雄武を考える機会を得ることにより、将来的に雄武での就業、Uターン、永住につながるものと考えられ、また、本町の特産品開発発展のきっかけになる。今後も授業を参観し、今後も効果を分析することとしたい。<br><br>【主な取組】<br>・地元高校生による新たな特産品の開発 | 取組場所<br>北海道雄武高等学校 | 【取組の様子】<br> |
| 取組内容に関連する実施の現状と課題 | 令和５年度に事業が始まり、今年度で３年目となる。 | | |
| 取組による効果（数値目標） | 特産品開発の実施 | | |
| （2）取組内容・実施体制（Do） | | | |
| 取組内容、方法、手順、実施体制 | 【取組内容】<br>令和７年は６月と１１月の２回試食会を行っている。<br><br>【実施体制】<br>６月試食会<br>○地域交流センター（雄武道の駅の多目的ホール）を借用して来場して頂いた町民（約 130 名）へ振舞った。<br>○提供した商品<br>・韃靼そばラーメン（雄武産韃靼そば粉を麺に使用したラーメン）<br>・ホタテせんべい（雄武産ホタテを使用した煎餅）<br><br>11 月試食会<br>○雄武高校にて高校生の開発した商品が振舞われた。<br>○提供した商品<br>・雄武結（雄武町産の鮭・牛肉を使用したおむすび）<br>・おうむマン（雄武産牛肉とチーズを使用した肉まん・カレーまん）<br>・だったんドシャ（韃靼そばを使用したラングドシャ）<br>・ぷちっとマスコット（いくらすじ子のキーホルダー） | | <br>町内の有識者（雄武町長、産業振興課職員、地元水産加工会社）を招いての試食会<br>※写真は「雄武結（おむすび）」「おうむマン」「だったんドシャ」 |
| （3）効果項目に対する評価（Check） | | | |
| 数値目標の達成度評価 | １１月は新規の開発メニューを振る舞うことができた。 | | |
| 反省点 | | | |
| （4）取組の改善措置（Action） | | | |
| 取組内容の改善点 | 商品アンケートについては、年齢層が幅広く、全てに答えるのは難しいことから、対象者を絞って分析したほうが良い。 | | |
| 取組の実施に必要なもの | 雄武高校教諭や委託企業との情報共有や連携の強化 | | |

●イベント等による水産業の振興（継続）

| （1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan） | | | 関連資料 |
|---|---|---|---|
| 地域 MV における取組の位置付け | 【地域の将来像】<br>・美味・安心安全・安定供給を両立する水産生産基盤の強化<br>・雄武の宝（資源・取組・文化）を明確にしたまちづくり・ひとづくり<br><br>【主な取組】<br>・雄武の宝　うまいもんまつりの開催 | 取組場所<br>雄武町ふるさと 100・メモリアル広場 | 【取組の様子】<br> <br>【鮭の掴み取り】<br> <br>【鮭のちゃんちゃん焼きの提供】<br> <br>【ご当地ゆるキャラ】<br>写真左から いくらすじ子(雄武町)、紋太（紋別市)、ピコロ（滝上町） |
| 取組内容に関連する実施の現状と課題 | 「うまいもんまつり」は平成 20 年から毎年 9 月の最終日曜日に町民向けとして漁業・農業・商工業の連携によりスタートした秋の収穫祭であり、地元産の海鮮物の販売や地元の特産品を扱った料理の提供、生きたサケのつかみ取り大会が人気イベントとなり町内外から多くの来場者が訪れている。 | | |
| 取組による効果（数値目標） | ・産業間の連携による地域振興<br>・雄武の特産品や観光資源の PR | | |
| （2）取組内容・実施体制（Do） | | | |
| 取組内容、方法、手順、実施体制 | 【取組内容】<br>・雄武の宝　うまいもんまつりの開催<br>開催日：R7.9.28、来場者：約 5,000 人（前年度：約 5,000 人）<br>・サケのつかみ取り（100 匹）、水産品の即売会（毛ガニ、鮭、ホタテ等）<br>・地場産品の販売や地場産品を使った料理（ちゃんちゃん焼き等）の販売・提供<br>・近隣市町のご当地ゆるキャラが参加するクイズ大会<br>・おうむ競り市（地元特産品の競り市を来客参加型で開催）<br><br>【実施体制】<br>・うまいもんまつり実行委員会（観光協会、漁協、水産加工協、農協、商工会ほか） | | |
| （3）効果項目に対する評価（Check） | | | |
| 数値目標の達成度評価 | 雄武町の味覚を来場してくれた方々へふるまうことができ、雄武町の特産品を PR することが出来た。 | | |
| 反省点 | 今年は多くのボランティア参加者が集まったが、次年度以降も継続的に募っていけるよう関係団体と協議していく必要がある。 | | |
| （4）取組の改善措置（Action） | | | |
| 取組内容の改善点 | 大きな賑わいを見せた今年度の状況を、次年度以降も継続し拡大を見込む必要がある。 | | |
| 取組の実施に必要なもの | 関係機関、団体との連携、協力関係<br>継続性を持たすための情報発信・連携 | | |

●漁業体験ツアーの実施（新規）

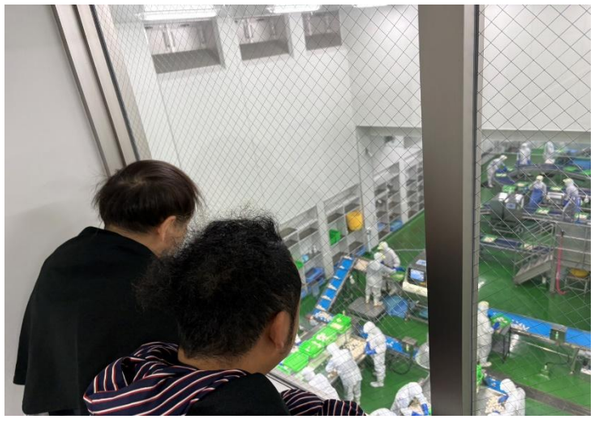
| （1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan） | | |
|---|---|---|
| 地域 MV における取組の位置付け | 【地域の将来像】<br>・地域特産品の魅力度向上、魅力発信<br><br>【主な取組】<br>・雄武町ガストロノミー体験 | 取組場所<br>雄武町内 |
| 取組内容に関連する実施の現状と課題 | 関東圏の消費者を対象としており、雄武町産鮭を扱ったツアーを開催した。 | |
| 取組による効果（数値目標） | ツアーの継続実施（年２回以上） | |
| （2）取組内容・実施体制（Do） | | |
| 取組内容、方法、手順、実施体制 | 【取組内容】<br>１０月１９日～鮭まるごと授業：鮭の三枚おろし体験<br>雄武式 BBQ“やきどこ”体験（ホタテ、ジンギスカン、鮭のバター焼き等）<br>１０月２０日～鮭の水揚げ見学（沢木漁港）、浜散歩、雄武漁業協同組合工場見学<br><br>【実施体制】<br>・観光協会、漁協、漁業者 | |
| （3）効果項目に対する評価（Check） | | |
| 数値目標の達成度評価 | 回数は１回だが、６名が参加することとなり、日頃できない体験の数々で大変好評となった。 | |
| 反省点 | 実施時期や周知の時期を前倒しして、複数回実施できるようにしたい。 | |
| （4）取組の改善措置（Action） | | |
| 取組内容の改善点 | 鮭の水揚げ見学や飛行機の遅延等、天候に左右される部分が多いため、スケジュールに余裕が必要である。（今年度は買い物の時間を確保出来なかった） | |
| 取組の実施に必要なもの | 関係機関、団体との連携、協力関係<br>継続性を持たすための情報発信・連携 | |

**関連資料**

【取組の様子】

【鮭の三枚おろし体験】

【鮭の水揚げ見学】



【雄武漁業協同組合工場見学】